

都留市パブリック・コメント制度 意見募集結果

案件名	つる観光戦略(案)について
意見提出期間	令和元年8月1日～20日
公表日	令和元年8月1日
意見等の提出件数	提出者2名 提出件数7件
意見等の受付方法	持参1名、メール1名

意見等の内容	件数	市の考え方
<p>蒼竜峡の景観を生かした観光を 実践してほしい。具体的には田原の 滝からおなん淵までの散策ルート開 発や蒼竜峡(桂川)への遊歩道又は 展望施設の設置などを検討して いただきたい。</p>	1	<p>蒼竜峡のように自然が作り出した美しい造形は、本市の重要な観光資源の一つとして捉えており、「おさんぽガイドブック」として提供させていただいている「つるさんぽ」にも蒼竜峡の魅力を紹介し、誘客を図っているところであります。</p> <p>本戦略(案)では、「フットパスを活用した観光ルートの再整備」の中において、既に整備されているフットパス(東桂駅～田原の滝公園間)の周辺の見どころやフォトスポットなどの情報をPRしていくとともに、フットパスから派生するモデルルートを策定し、宝鏡寺や蒼竜峡といった湧水群から離れている場所にも案内できるよう整備することや、シャワークライミング、チュービングなどの河川アクティビティとして活用することで誘客に繋げることを明記させていただいているところであります。</p> <p>しかしながら、周辺の遊歩道整備や展望施設などについては、蒼竜峡(桂川)が山梨県の管理する1級河川区域内であることから、その設置が難しいものと考えます。</p>
<p>家中川など、現在の水利の有効 利用に至った歴史的経緯などにつ いて、看板等で周知していただき たい。</p>	1	<p>谷村大堰は、秋元泰朝が、寛永13年(1636年)から約3年を費やし、田原の滝の上流から桂川の水を取り入れて開削したものであり、谷村城下町の発展の礎となったものであります。</p> <p>この谷村大堰については、「谷村大堰顕彰碑」として、谷村大堰取水口(田原の滝近く)、家中川(市役所前)、中川(上町)、寺川(長安寺前)にそれぞれ建立し、周知を図っております。</p> <p>また、平成23年10月23日から11月27日まで、ミュージアム都留において「谷村大堰と人々の暮らし」と題して企画展を開催し、谷村大堰が人々の暮らしに与えた恩恵について、農業、産業のみならず、民俗、植生にまで視点を広げ企画展を開</p>

		<p>催いたしました。</p> <p>さらに、毎年4月には、谷村大堰の完成以降連続と続けられている「定式」と呼ばれる地域住民による家中川の河川清掃が行われております。</p> <p>本戦略(案)では「富士の麓の小さな城下町」をキーワードに、家中川に設置された水車の動力が、織物業の発展や発電所の設置に至った歴史的な景観や背景をブラッシュアップしていき、誘客を図っていきたいと考えております。特に谷村地区については、「谷村城下町・歴史エリア」とし、ミュージアム都留を中心に勝山城、商家資料館、屋台展示庫、谷村の寺町など、本市の歴史・文化を認知、体現できるエリアを目指していることから、谷村大堰についても貴重な歴史遺産として捉え、ご意見をいただきましたとおり、家中川(谷村大堰)についても観光資源として、活かしていけるよう、本戦略(P18)に追記することといたします。</p>
<p>都留アルプスを中心にしたハイキングイベントやご当地アルプスの宣伝強化について</p>	<p>1</p>	<p>都留アルプスにつきましては、本市のほぼ中央に位置する標高500mから650mの山脈を「都留アルプス」と名付け、市内の登山愛好会である都留アルプス会の協力により、毎年フリーハイキングのイベントとして実施しており、年々参加者が増加しております。さらに、このイベント以外でも民間実施のツアー等により都留アルプスに訪れている方々についても年々増加しているところであります。</p> <p>本戦略(案)でも、富士山の絶景ポイントが点在する都留アルプスや都留市二十一秀峰などを活用し、誘客に繋げることを掲げており、日本トレッキング協会の認定コースとなるような周辺整備や地元山岳会等との連携した登山イベントを開催することに加え、登山者が滞在していただけるような着地型観光プログラムを開発し、地域の経済活性化に繋げていきたいと考えております。</p> <p>また、これらの宣伝につきましても、本戦略(案)の「つる観光戦略4つの柱」にもありますとおり、観光イメージ戦略として、プロモーション活動を強化していく中で「都留アルプス」についても組み入れていくこととしております。</p> <p>特に登山・ハイキングに行った人の状況(行動者率)では60歳以上の高齢者が多く、地域別では</p>

		東京都や神奈川県の子民であることから、こういった統計情報をもとにターゲットを絞った中で、効率的なプロモーションを実践していきたいと考えております。
アツツ観音の宣伝について	1	<p>市内には数多くの寺社が点在しており、寺社の持つ歴史的、文化的な価値を観光資源として捉え、誘客に繋げていきたいと考えております。</p> <p>アツツ観音につきましては、本年度における「駅からハイキング」に追加で資料提供させていただいたところでありまふ。</p> <p>本戦略(案)におきましても、観光資源活用戦略の中で、常に観光客の目線にたち「ニーズ」と「ウォンツ」を見つけ、ウォーキングルートのコース設定などにより誘客に結び付けていくこととしているため、ご意見をいただきましたとおり、アツツ観音を含めた寺社、仏閣が多く点在する本市の特性と歴史的、文化的価値を観光に活かすため、本戦略(P20)に追記することといたします。</p>
桃太郎伝説の活用について	1	<p>大月市及び上野原市にまたがる桃太郎伝説は大変興味深く、九鬼山との関連についても今後調査、研究し、観光資源となりうるか検討していきたいと考えております。</p> <p>本戦略(案)では、観光資源のPR効果とインバウンド向けの対応として、近隣市町村である大月市、八王子市、あきる野市、相模原市と連携を行い広域的な周遊ルートの開発や効果的なプロモーション活動を行うこととしております。</p>
富士五湖観光連盟への加盟について	1	<p>本戦略(案)の策定の目的の一つとしては、富士山・富士五湖エリアに訪れる多くの観光客を「富士の麓の小さな城下町つる」に誘導することであり、当然、富士五湖観光連盟を始めとした富士山・富士五湖エリアの観光団体等と協力・連携関係を今まで以上に築いていきたいと考えていることから、本戦略(P15)に近隣市町村の観光関連事業者等との連携について追記することといたします。</p>
年間イベント計画における早期決定とPRの開始について	1	<p>本戦略(案)では、年間を通じ、多くの観光客が訪れている「道の駅 つる」を観光情報ハブとして、情報発信機能を充実させていきたいと考えております。</p> <p>さらにインスタグラム、ツイッター、フェイスブック</p>

	<p>などのSNSが観光情報を発信する強力なツールであることから、全国から集まってきている都留文科大学学生や都留から全国各地に巣立っていった都留文科大学OB・OGなどの力も借りて「つる観光」をPRしていくことも検討していきたいと考えております。</p> <p>ご指摘の市内で行われる各種イベントの周知については、チラシ、ホームページ、SNS 等を活用し早いタイミングで周知を図っていきたいと考え、本戦略(P25)に追記することといたします。</p>
--	--